



文化財通信くまもと



第21号

平成15年3月

熊本県
教育委員会

新指定文化財について

平成14年度は新たに以下3件の史跡及び名勝と3件の建造物が国の指定を受けました。

国指定史跡 たなかじょうあと 田中城跡



田中城跡空中写真

所在地 玉名郡三加和町大字和仁字田中 293-3

指定年月日 平成14年3月19日

概要 田中城は戦国期の和仁氏の城です。天下統一を進める豊臣秀吉の九州平定後、肥後領主として佐々成政が任命されましたが、天正15年(1587)成政の検地に対して肥後北部の国衆(土着の武士)による一揆が起こり、秀吉は成政への援軍二万人を動員し鎮圧しました。これにより多くの国衆が滅亡する一方、成政は一揆の責任を取られ切腹。その

後、肥後北部に加藤清正、南部に小西行長が任命されました。この城跡は戦国時代の多くの城の中でも歴史的に重要で、当時の様子をよく残した遺跡です。

国指定史跡 ちへんじあと 池辺寺跡 (追加指定)



池辺寺庭園遺構

所在地 熊本市池上 3050-1-16

追加指定年月日 平成14年3月19日

概要 池辺寺は熊本市西部に位置する9～10世紀頃の天台系山岳寺院跡として平成9年9月11日に指定されました。その後調査が進められ、庭園の池をはじめ、鍛冶工房跡など当時の寺院配置や構造を知る上で貴重な遺構が確認され、今回新たに追加指定を受けました。

国指定名勝 きゅうくまもとほんやつしろうじょうしほまおちや しょうひんげん 旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園



松浜軒と庭園

所在地 八代市北の丸町 3-20-1 ほか

指定年月日 平成14年12月19日

概要 八代城主松井直之が元禄元年(1688)に母の崇芳院尼のために造った庭園です。当初は海浜に位置したことから「浜御茶屋」と呼ばれ、また松林が連なっていたことから「松浜軒」とも呼ばれました。庭園は、球磨川の水を取り入れた池の北側に築山を設け、松波越に遙か雲仙を望む名園です。江戸初期の庭園の造りをよく残しています。

国指定重要文化財（建造物） はっしょうじあみだどう 八勝寺阿弥陀堂 一棟



八勝寺阿弥陀堂近景

所在地 球磨郡湯前町字長谷場 5703-1

指定年月日 平成 14 年 12 月 26 日

概要 八勝寺阿弥陀堂は、人吉・球磨地方に多く遺る三間仏堂のひとつです。現在は瓦葺きですが当初は茅葺の屋根で、構造などから15世紀後半の建造とされています。人吉・球磨地方の社寺の特色をよく残しているとして指定を受けました。

国指定重要文化財（建造物） いおやくまのざじんじや 岩屋熊野座神社 中央殿ほか四棟 鳥居 一基



岩屋熊野座神社中央殿

所在地 人吉市東間上町 3799 番地ほか

指定年月日 平成 14 年 12 月 26 日

概要 同社は、御殿と呼ばれる覆屋の中に、三棟の本殿と二棟の摂社が整然と並ぶ独特な造りです。古いものは天正年間（1573～1591）の建物とされ、新しいものは享保12年（1727）の建造です。鳥居は元禄14年（1701）に造られたもので人吉・球磨地方で最も古い石造鳥居です。

国指定重要文化財（建造物） みすみきやうこう みすみにしこう 三角旧港（三角西港）施設 一構



三角旧港近景

所在地 宇土郡三角町大字三角浦字瀬戸

指定年月日 平成 14 年 12 月 26 日

概要 九州の中心的商港のひとつとして、明治17年（1884）5月に起工、同20年6月に竣工した我が国初の本格的な近代港湾施設です。オランダ人技師ムルドルの計画及び設計に基づき造られたもので、背後の土地利用計画の骨格をなす道路や排水施設が一体的に配置された港湾施設として、歴史的に価値が

高いものです。また、明治の三大築港として知られる三角西港、三国港（福井県）、野蒜港（宮城県）のうち、当時の姿をとどめるものは本港のみで、貴重な建造物です。

平成 14 年度の調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物
城ヶ辻城跡	玉名市寺田	古墳時代、中世	横穴式石室等	須恵器、土師器、鉄器、玉類
前田遺跡	玉名市月田前田	縄文～近世	竪穴住居跡、土壇等	弥生式土器、玉類
群前遺跡	玉名市津留群前	中世、近世	溝等	青磁、土師品
熊本城跡遺跡群	熊本市二の丸1-5	戦国～近世	竪立柱建物跡、土壇等	陶磁器類
小曾部西園遺跡	下益城郡不知火町小曾部	古代～近世	竪立柱建物跡、土壇等	土師器、陶器等
高良柳迫遺跡	下益城郡不知火町高良	古墳～古代	棚列、水路	土師器、須恵器等
松橋新開旧堤防	下益城郡松橋町南豊崎	近世		
高田手永開旧堤防	八代郡千丁町古岡出	近世	石組遺構	土師品
宮地動行寺遺跡	八代市宮地町	弥生～近世	竪立柱建物跡、土壇等	土師器、須恵器等
宮地小畑遺跡	八代市宮地町	古墳～近世	土壇等	青磁、須恵器、土師器
古籠城跡	八代市古籠町	古代～近世	竪立柱建物跡、井戸	青磁、白磁、土師品
古籠城下遺跡	八代市古籠町	古代～中世	竪立柱建物跡	青磁、白磁、土師品
中片小路遺跡	八代市中片町小路	古代～近世	近世墓、井戸	須恵器、土師器
金川遺跡	球磨郡五木村金川	縄文		縄文式土器、石器
岩倉山中園遺跡	熊本市八景水谷	縄文～弥生	住居跡	縄文式土器、石器、弥生式土器
上小田宮の前遺跡	玉名市上小田宮の前	縄文、弥生、古代	竪穴住居跡、竪立柱建物跡、道路、井戸	縄文式土器、土師器、須恵器、木器
玉名平野糸里跡	玉名市大字玉名	縄文、古代～近世	水田跡(古代～近世)、流路	縄文式土器、弥生式土器
玉名平野糸里跡	玉名郡岳明町	縄文晩期、弥生	水田跡(近世)	弥生式土器、土師器、木器
鍋抜遺跡	玉名市安楽寺	弥生～中世		土師器、須恵器、陶器
小野原遺跡群	阿蘇郡阿蘇町	弥生	竪穴住居跡、土壇等	弥生式土器、鉄器等
二本木遺跡群	熊本市春日	古代～中世	竪穴住居跡、土壇等	土師器、青磁等
西片百田遺跡・西片園田遺跡	八代市西片町	弥生～古墳	竪穴住居跡、水路等	弥生式土器、土師器、須恵器、木器

平成 14 年度 調査・整理遺跡紹介

まえばいせき

前田遺跡 ～弥生時代中期後半から後期前半期の集落跡～

前田遺跡（玉名市大字月田字前田）は菊池川の堤防と県道建設に伴って、平成13年7月から平成14年8月までの1年2カ月の間発掘調査を実施しました。標高約10.5mに位置し、調査面積は約4,500m²です。縄文時代後期から晩期、弥生時代中期から後期、中世（鎌倉時代から室町時代）、近世（江戸時代）にわたる遺物や遺構を確認し、特に弥生時代中期後半から後期前半期（今から約2,000年～1,800



現場説明会風景

年前)の遺物は、コンテナ約80箱分が出土しました。遺構としては住居跡を50軒、墓塚を2基確認しました。熊本県北部において弥生時代中期後半期の住居跡がまとめて検出されるのは非常に珍しく、菊池川中・下流域における弥生時代の人々の生活を知る、貴重な資料と言えるでしょう。(岡本)

このぼるいせき 小野原遺跡



上空から見た小野原遺跡（手前）と外輪山（前方）

遺跡は阿蘇谷の北西部に位置し、現在弥生後期の家の跡、約100棟が見つかっています。遺跡は、黒川の旧河道をはさんで下扇原遺跡しもおうぎのぼらと小野原A遺跡おののらの二つの地区からなり、調査面積はあわせて40,000m²にもなります。調査では鉄器やガラス、ベンガラが大量に発見され、特に鉄器とベンガラはこの村で作られていたことが明らかになりました。ではなぜこの地域に鉄器やベンガラの生産地帯が生まれたのでしょうか。阿蘇谷には褐鉄鉱（リモナイト）の鉱床が分布しています。褐鉄鉱は、それ自体で鉄を造るには高度な製錬技術が必要としますが、混ぜ物として使うには十分の材質だったようです。事実鉄滓てつさいも多く検出しています。また、褐鉄鉱は火で焼くと簡単にベンガラができます。このように、原材料が近くに存在したことが最大の要因

ではないでしょうか。阿蘇谷の褐鉄鉱は、現在も脱臭剤や絵具の原料として採掘され、昭和の時期まではベンガラも製造されていました。このようにこの地域では、鉄とベンガラとの付合いが二千年に及ぶという全国的にも珍しい歴史的風土が形成されてきたようです。（宮崎）

くまもとじょうあいつきぎんふろしうじょうだん ちょうさ 熊本城跡遺跡群古城上段の調査 ～戦国時代の「隈本城」跡～

古城上段調査は、国立熊本病院建替えに伴うもので、熊本城内二の丸にあります。調査面積は約2,200m²で、加藤清正が熊本城を築城する以前の城（「隈本城」と呼ばれる）や、江戸時代の家老松井家の屋敷跡などが見つかりました。「隈本城」の遺構いこうは北側の郭くわくの一つと考えられ、このほか櫓やぐら、横濠よこぼり、掘立柱建物ほったてはしらたてものなどが確認されました。「隈本城」の遺構としては初めてまとまった形で発見され、今まで言わ



松井家屋敷跡全景

れていた城の範囲の見直しを迫る重要な発見です。また加藤時代の道路や、松井家屋敷の地下式倉庫なども見つかりました。倉庫からは大量の遺物いぶつが出土しましたが、茶器ちやきなどの高級品も多く、家老松井家の生活ぶりがうかがえます。（水野）

城ヶ辻古墳群 ～丘陵部より2基の古墳を発見～



城ヶ辻7号墳石室

遺跡は、菊池川に架かる玉名市高瀬大橋から上流へ0.3km程の地点左岸の丘陵地にあります。標高34mの丘陵頂部からの眺めは良好で、前方遠景には小岱山を望み玉名平野を一望することができます。この丘陵には「城ヶ辻」という字名が残されており「城ヶ辻城跡」の推包地です。ここには古墳も存在しており、今回の調査で周溝を伴った6世紀頃の2基の横穴式石室備えた円墳を発見しました。これで城ヶ辻古墳群の古墳は全部で7基になりました。2基とも盗掘を受けていましたが、写真掲載の古墳は天井部が破壊されていただけで、他はほぼ完全な形で残されていました。またこの石室は天井部がよく似た形をしており、熊本県内ではとても珍しい貴重な古墳です。この古墳からは鉄の刀や書、鏝等の鉄製品が出土しました。その他古墳の周りから土壌壘も数基発見されました。菊池川流域の古墳文化を考える上で、とても貴重な発見と言えます。(出田)

島田遺跡出土の木製品

八代市島田町にある島田遺跡は、九州新幹線の建設に伴って発掘調査が行われた遺跡です。この遺跡は弥生時代前期から後期、古墳時代前期の遺跡で多くの竪穴式住居跡が見つっています。特に平成14年1月から3月まで調査したⅡ・Ⅲ区では、古墳時代前期(4世紀)の竪穴式住居跡、高床式倉庫跡と土壌、柱穴や堀などを発見しました。その土壌の中から「ネズミ返し」(高床式倉庫の柱に鼠よけとして取り付けられた板)と鋤(昔のスコップ)がほぼ完全な形で出土しました。また、Ⅲ区では高床式倉庫の跡を3軒検出し、土壌を4箇所検出しています。この土壌からは小型丸底壺が数多く出土しているため、祭祀的な意味合いを持つ場所であったと考えられます。「ネズミ返し」の出土した土坑からも沢山の小型丸底壺が出土していることから当時の人々の願いが込められていたのかもしれない。(野田英)



ネズミ返し等木製品出土状態

九州新幹線建設事業に伴う埋蔵文化財調査 ー八代地区ー

古麓城跡 ～14世紀から15世紀にかけての五輪塔群～



大型五輪塔群出土状態

丘陵の谷部にあたる調査区からは、14世紀から15世紀にかけて造られた大型五輪塔群と16世紀頃に造られた小型五輪塔群が出土しました。中でも、大型五輪塔群のうち1基には「元中九年 壬申 二月十五日」(西暦1392年)「昌壽」の陰刻銘が入ったものがあり、大変貴重なものと考えられています。(坂口)

九州新幹線建設に伴い、八代地区の着工に先駆けて今回発掘調査を行いました。古麓城跡は古麓山西側の穏やかな斜面に位置しています。この城跡は南北朝期から戦国期にかけての名和氏や相良氏の居城として築かれたと考えられています。今回の調査では城域の北側にあたる箇所を調査を行いました。調査面積はおおよそ10,000m²で、丘陵部の「新城」と呼ばれる調査区からは柱穴群と井戸跡が見つかりました。

宮地小畑遺跡 ～5世紀から19世紀にかけての集落～

八代大平山の麓の平地に位置する宮地小畑遺跡は新幹線建設事業に伴い、発掘調査を行っている遺跡です。

現在此处は「亀蛇舞い」で有名な妙見宮(八代神社)の門前町になっています。

調査面積はおおよそ10,000m²で、5世紀から19世紀にかけての集落跡を発見しました。見つかった土坑の1基からは、唐草文軒平瓦が出土しています。このことから、古代寺院跡がこの近くに存在する可能性があります。

中世の層からは、掘立柱建物跡数十棟分を見つけました。比較的狭い面積に多数あるので、何度か建て替えがあったのでしょうか。

また、貝塚の中から埋葬されたと考えられる犬の完全な骨も3体見つっています。(坂口)



発掘作業風景

阿高貝塚の調査と整理事業 ～貝塚が語るもの～



整理事業風景

下益城郡城南町にある縄文時代の貝塚で、県道改良事業に伴い、平成4・10・11年度に、熊本県文化課が発掘調査を実施しました。

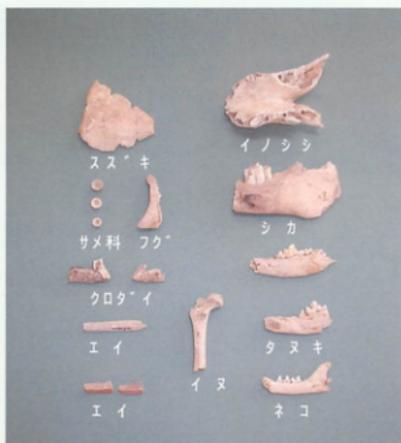
この貝塚は、今から約4,000年ほど前のものです。貝塚とは、当時の人達の食用になった貝類の殻などの生ゴミが捨てられた場所のことです。

発掘した貝類や土は、すべて持ち帰りました。そのほとんどを水洗いしながらフルイにかけ、そこに含まれてい

る貝や骨を探すというとても長く作業をおこなっています。多い時には、6種類のフルイを使って水洗して、残った貝がらの中から遺物を探し出し、分類しています。貝塚では多量に捨てられた貝のおかげで、普通の遺跡では消滅してしまう魚や獣の骨などが良く残っているのです。細かなフルイの場合では驚くほどたくさんの骨などが残っています。これらを全て、虫めがねとピンセットを使って分類して、数を数えたり大きさを測ったりしていきます。

作業の結果、当時の人々が、いつ頃、どんな種類の、どんな大きさのものを食べていたのかが分かります。また、その他にも、周辺的环境やその変化についても分かることがあります。

現在、たくさんのスタッフの協力で作業を継続中です。この地道な作業を続けることによって、当時の様子を知ること、ほんの少しだけ近づくことができます。(帆足)



阿高貝塚より出土した貝類(写真左)と獣・魚骨(写真右)

文化財資料室の公開・普及活動について



展示室

文化財資料室では、文化財の保護・普及を目的に、さまざまな活動を行っています。この施設は、熊本県教育委員会が行う埋蔵文化財の発掘調査で出土した資料の整理・収蔵のために設置されました。膨大な量の収蔵品の中には学術的に貴重なものも多くふくまれます。これら豊かな郷土の文化遺産を広く県民の皆様にご存知いただくため、収蔵品の展示会をはじめ、原始・古代を対象にした体験学習会の開催など積極的に取り組んでいます。

本年度も、以下のような行事を予定しています。

- ◎ 前期企画展『野を駆けた縄文の獣たち』
開催期間：平成 15 年 5 月 12 日～8 月 29 日
- ◎ 後期企画展『もの言わぬ古代の石人たち』
開催期間：平成 15 年 10 月 6 日～2 月 27 日
- ◎ 夏休み古代体験学習会
開催期間：平成 15 年 7 月 22 日～8 月 29 日



「古代写真館」撮影風景

体験学習 ㊤『縄文土器を作ろう』

※メニューの㊤と㊦は、年間を通して、日祭りを除く毎日体験することができます。

メニュー ㊦『古代の勾玉を作ろう』

◎『古代写真館ただいま開館中』

夏休み期間中だけの特別メニューです。

交通機関のご案内



勾玉作りに挑戦する子供たち

★今年度もナイストライ（中学生職場体験学習）を受付中です。

詳しくは文化財資料室までお問い合わせ下さい。